

Kureishi and Wakabayasi “Precautionary Savings and Single Women in Japan” への  
コメント

立命館大学経済学部

坂田 圭

【目的】

- 「消費生活に関するパネル調査」を用いて、女性が独身であり続けることの予備的貯蓄への影響を検証する
- 結婚のリスク・シェアリング機能を検証する。

【結果】

- 3年以内に結婚した人のほうがそうでない人に比べて予備的貯蓄が少ない。

【貢献】

- 労働所得の減少、失業といったリスクと予備的貯蓄の関係を分析した研究は存在するものの、結婚と予備的貯蓄の関係を分析した研究はまだない。
- 結婚のリスク・シェアリング機能を検証した数少ない研究
- 内生性の問題も考慮に入れた完成度の高い論文。

【従属変数の定義】

- 本研究では、予備的貯蓄の目標額を従属変数として用いている。
  - 「病気、災害、その他不時の出費に備えるため」
  - 「特に目的はないが貯蓄をしていれば安心だから」

【目標額の問題点】

- 額ではなく、これらの項目が全体の貯蓄目標額に占める割合で検証したほうがよい。
- 絶対的な目標額より、相対的な重要性のほうが大切かもしれない。
- 前向きな人は目標額が高い(固定効果)→結婚確率↑
- 説明変数と誤差項の相関

【qit の定義】

- $qit = 1$  3年以内に結婚した人
- $0$  その他
- 「3年以内に結婚できる期待」として捉えてよいか？
- 婚約してから3年も結婚まで間が開く人は珍しい。
- 1年以内、2年以内でも頑健性の検証をするべき。

#### 【結婚願望に関する設問】

- 問1：結婚（法律にもとづくもの）はしたいですか。
  1. まもなく結婚する ことが決まっている
  2. すぐにでもしたい
  3. 今はしたくないが、いずれはしたい
  4. 必ずしも しなくてよい
  5. したくない

#### 【qit の新しい定義】

- qit = 1 まもなく結婚する ことが決まっている
- 0 その他
- 結婚願望に関する設問は、qit の操作変数として用いているが、qit として直接的に用いたほうがよい。

#### 【操作変数】

- あなたは、この1年間に、結婚に向けた次のような行動をしましたか。（○はいくつでも）
  1. 親戚や家族の紹介でお見合をした
  2. 友人の紹介でお見合をした
  3. 友人や親戚に男性の紹介を頼んだ
  4. この1年の間に、結婚紹介の会に加入した
  5. 1年以上前から、結婚紹介の会に継続加入している
  6. 結婚情報誌を購読した
  7. 恋人と結婚について話し合った
  8. 婚約をした
  9. その他（具体的に ）
  10. 何もしなかった

#### 【頑健性の検定 逆の検定】

- 問1．結婚（法律にもとづくもの）はしたいですか。
  1. まもなく結婚する ことが決まっている
  2. すぐにでもしたい
  3. 今はしたくないが、いずれはしたい
  4. 必ずしも しなくてよい
  5. したくない

### 【逆の検定】

- 「必ずしも しなくてよい」、「したくない」の場合、結婚によるリスクシェアリングが期待できないので、予備的貯蓄はその他の人に比べて多いはず。
- $q_{it} = 1$  必ずしも しなくてよい/したくない
- $0$  その他

### 【Hypothesis 2 上方婚と貯蓄の関係】

- 別の論文にしたほうがよい。
- 個人属性を用いて上方婚の確率を推定
- 予測値 (propensity score)を求める。
- 予測値を「高所得の男性と結婚できる期待」として用い、貯蓄式に説明変数として加える。

以上